



発行・カトリック水巻教会

編集・広報委員会

遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3

〒807-0025

TEL 093(201)0680 FAX(201)7354

第346号

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

出向いて行き、率先する教会 マヘル神父

御復活おめでとうございます。教会の中で新たにイエス様が復活なされた気がいたします。今月も教皇フランシスコの「福音の喜び」について考えたいと思います。

「出向いていく」教会は、宣教する弟子たちの共同体です。彼らは率先する人、かかわり合う人、寄り添う人、実りをもたらす人、そして祝う人です。福音宣教をする共同体は、主がイニシアチブをとり、先に私達を愛してくださったこと(ヨハネ4・10)を知っています。だからその共同体は、前進し、恐れることなくイニシアチブをとり行って、遠くにいる人を探し出し、疎外されている人を招くために従来の真ん中に立つことが出来るのです。その共同体はいつくしみを示したいという尽きない望みを抱いています。

それは天の御父の無限のいつくしみと、その力が及んだことを自らが体験した実りです。そうすれば、教会はかかわるものとなれるでしょう。イエスは弟子たちの足を洗いました。主は人とかわり合い、弟子たちにかかわります。洗うために、その前にひざまずきます。そしてその後で、弟子たちに言われます。「そのとおりに実行するなら、幸いである」(ヨハネ13・17)福音を宣教する共同体は、行いと態度によって他者の日常生活の中に入っていき、身近な者となり、必要と

あらば自分を虚しくしてへりくだり、人間の生活を受け入れ、人々の内に苦しむキリストの体に触れるのです。こうして福音宣教者には、いわば「羊の匂い」がしみており、羊は彼らの声を聞くのです。さらに、福音宣教する共同体には「寄り添う」用意が入り、それが辛く長いものであっても、すべての道のりを人類と共に歩みます。そしてじっくり待つ事と使徒的な忍耐を知っているのです。福音宣教には、多くの忍耐と、限界を設けず向きあうことが必要です。主から受けた賜物に忠実であることは「実を結び」ます。福音宣教する共同体は実を結ぶことをいつも気遣っています。毒麦が出ても慌てません。種蒔く人は、良い麦の間に毒麦が現れても、悲しんだり騒ぎ立てたりはしません。見た目には不完全な実や未熟な実であっても、御言葉が具体的な状況に根つき、新たな命の実を結ぶように努めます。

弟子は、イエス・キリストをあかしするために、殉教に至るまでにその全生涯を差し出しますが、敵を増やすことを望んでいるわけで

イエスを歓迎した群衆と・・・	2・3面
委員会等報告・・・	4面
林神父様黙想会報告・・・	5・6面
幼稚園から・今月の聖人・・・	7面
お知らせ・教会学校・・・	8面

はありません。むしろ、みことばが受け入れられ、解放と刷新をもたらす、みことばの潜在力が、発揮されることを望みます。つまり、福音を宣教する共同体は嬉しさに満ちていて、いつも「祝う」事を知っています。小さな勝利を、福音宣教における一步一步の前進を喜び祝います。嬉しさに満ちた福音宣教は、善を推し進める日々の要求の只中であって、

典礼において美しく輝きます。教会は、福音化されます。

典礼は福音宣教活動の祝祭であると同時に、自分自身を与えるための新たな原動力の源でもあるのです。今年はパパ様の進めている「率先する」共同体になるように努力しましょう。



イエスを歓迎した群集と死刑を訴えた群集は同じか

広報委員 (三谷)

このからしだねが配布される時は、喜ばしい復活の時節になっているはずですが。次の週に暗い話は過ぎたことで申し訳ないですが、なお、ご思慮頂ければと思います。

イエスがエルサレムに入られ、民衆が歓迎し、ダビデの子にホザンナと歓呼の歌を歌ったが、数日後に一転民衆は手のひらを返して、イエスを処刑しろと叫んだ。同じ人々のイエスの歓呼の叫びが、数日でイエスの十字架刑を要求する叫びに変わった。

このことについて、時々これは本当なのかと言われることがあります。私の積年の疑問でもありましたので、(信徒のみなさんを惑わすかもしれませんが)、あくまで素人として調べて、考えてみました。

まずは、マタイ、マルコ、ルカ書において、エルサレム入城と、死刑への叫びの箇所を、共通に抜き出してみます。もう結論を先取りしてしまいましたが、大切な文言を、ボールド体で協調します。

マタイ 21-8 (エルサレム入城) **大勢の群集**は自分の服を道に置き敷き、・・

ダビデの子にホザンナ

27-1 (相談) 夜が明けると、祭司長たちと**民の長老**たちは

イエスを殺そうと相談する。

27-20 (死刑への叫び) 祭司長たちや**長老**たちは

「バラバを釈放して、イエスを死刑に」

マルコ 11-8 (エルサレム入城) **多くの人**が自分の服を道に敷き、・・・

ホザンナ、主の名によって来られる方に祝福が・・・

14-43 祭司長、律法学者、**長老**たちの遣わした**群集**が一緒に来た。

15-1 (相談) 夜が明けると祭司長たちは、長老や立法学者と共に相談する。

- 15-13 (死刑への叫び) **群集**は叫んだ「十字架につけろ」・ ・
ルカ 19-37 (エルサレム入城) 弟子の群れは、・ ・ ・ 賛美し始めた。
主の名によって来られる方。
22-66 (相談) 夜が明けると、**民の長老会**、祭司長たちや律法学者が集まった。
23-13 ピラトは、祭司長たちと議員たちと**民衆**とを呼び集めて言った。
23-18 (死刑への叫び) **人々**は一斉に
「その男を殺せ。バラバを釈放しろ。」と言う。

まず、仮定として(1)エルサレム入城でイエスに歓呼の声を上げ、ロバに乗ったイエスの通る道に自分の服を敷いた人々と (2)大祭司の庭、その後ピラトの前に揃った人々。この両層は、どちらも同じ身分であった。あるいは、ともかく行政官、祭司、律法学者以外のあらゆる階層の集団としましょう。

もしそうであっても、同一の人々であるとは考えにくいと思われます。それは(少し奇妙な例ですが) 室町時代に偉大な仏教の開祖が来て、現在の八幡東区で庶民たちに絶大な歓迎を受けたが、宗教的信念を持って自ら進んで危険な小倉城主のふところに飛び込み、同城内で「死刑にせよ」との大勢の声があり、その声に従って城主が処刑した。

ここで歓迎した人たちと、処刑を叫んだ人たちは異なる人たちであるのが当たり前です。小さい都市のエルサレムですら、ある人々がそろそろと移動することは考えられません。次に、そこに登場する人に関係ない変化、それは数日間に起こった変化の可能性ですが、数日間で、イエスを歓迎する→イエスの死刑を望む、こんな変化がエルサレムの中に起こるには、戦争や政治的緊張関係の様な「イエスの来訪と別件の絶大で突然変化した出来事」がない限りあり得ません。あり得るならローマの態度の急変、ヘロデ王の変化、両者の緊張関係が考えられます。

以上の一般論は考えても仕方がないことであり、両者は違う人達だと言えます。肝心なことは、やはり身分、人種の違いです。それは実際に聖書を読んだら分かります。

エルサレム入城で歓迎した人は、心の素直な町民・農民か、信徒たち、これは限定された12人の使徒ではなく、正反対の膨大な人数となっているイエスの教えを信じる人々です。

一方、死刑を叫んだ人々は、民の長老会(ルカ、マタイ)、長老たちの遣わした群集(マルコ)です。ルカでは読み進むごとに民の長老会→民衆→人々と変わっていますが、途中で人種が入れ替わるはずもなく、これらは同じ民の長老会と考えられます。

やはり、死刑を叫んだ「民衆」は人数が多かったから民衆と書いてしまったが、実は民衆とは言えない、当時の宗教リーダー達(祭司、律法学者に次ぐもの、長老と言えれば現在でも使われる用語で教会の実力者)だったのでしょう。その様な人たちが、イエスを恨む可能性は毎週の聖書朗読で理解できます。

委員会等報告

2016年3月分

3月度小教区委員会 3月13日

1. 前委員会の議事録確認

地区集会の報告

検討する。

並行して、各委員も検討をする。

2. 先月の行事報告

2月20日(水) 灰の水曜日

2月26日(金) 共同回心式

10時、19時30分

3月5日(土)～6日(日) 黙想会

林神父様

3. これからの活動計画

3月20日(日) 枝の主日

3月24日(木) 聖木曜日 19:30

※洗足式

3月25日(金) 聖金曜日 19:30

3月26日(土) 聖土曜日 19:30

3月27日(日) 復活の主日 10:00

※初聖体

4. 議題

- ・地区集会報告(梅ノ木、折尾、中間)
住所録の更新、病気の方のお見舞いなどの情報交換が必要との意見が挙がる
- ・役員改選
地区集会の結果は、「推薦」の意見が多かった。

検討した結果、次の方向性とした。

4月3日：小教区委員を役員選考委員会とし、推薦をもとに、委員長候補を確認し、

5. 各委員会・地区から

●納骨堂委員

納骨堂全室の蝶番(ちょうつがい)、鍵の交換を検討中。※錆のため、ステンレス素材への変更を検討

●典礼委員

聖週間の次第の説明

6. その他

- ・来年度、神学生の司牧実習有
小田武直さん(東京教区)
- ・豊田貴範神学生の助祭受段式が行われる。
3月19日(土) 2時、大阪カテドラル聖マリア大聖堂にて
- ・4月10日：小教区委員会



林神父による黙想会 3月5日～6日

下関労働教育センター所長も務められている広島教区・林神父によって、黙想会が行われました。ユーモア溢れかつエネルギー、そんな神父様であり聴衆を惹きつけました。一方、話の中身は、多彩な中、非常に深いものがありました。

この講話をまとめることは軽率で、下記に記す様な「固い信条」と思われたらいけないのですが、敢えて書けば、●1日目の講話は；政治には危険性があり、信仰を脅かすこともあるが、これにものを申すことは悪くはない。●2日目のミサの説教は；信徒協使徒職から始まって、やはり、政治の恐ろしさに信徒協は向かって構わない、教皇もこれへの対処はしてきた。一方、「神の愛が達する」状況を、神父様が足を折ったときの心温まるエピソードを含め語られる。●2日目の講話では、隣人愛、地球の環境問題をキリスト者として真に考えるべきこと、が述べられました。

参加された方に感想と報告を頂きましたので、掲載します。

四旬節の黙想会 「神のいつくしみの愛を受けて、神の国への派遣」

林尚志神父（下関労働教育センター）の講話 (矢田 公美)

『あなたの息を送って下さい すべてがあなたになるように』と3回歌って講話は始まりました。林神父様は言葉による教えというより、81才とは思えないエネルギーなパフォーマンスで、聖堂中央通路と祭壇前を舞台に演技？されました。

「時は満ちた。神の国は近づいた。回心して福音を信じなさい」四旬節は、心をイエスの復活に向けて回すときです。

神の国は、想像上の未来ではない。「神の国はあなたがたの中（間）にある」人と人のつながりが神の愛に達しているところにある。イエスは人間と同じ目線になるために人となられた。それほどに一人ひとりの人間は、神にとってかけがえのない存在だ。存在を尊重する。御聖体にこめられた神の愛。

意見がない社会は不健康だ。洗礼によってわたしたちは、3つの使命をいただいた：預言職（神の言葉を預かる）、祭司職（ポンティフェクス=橋を作る）、王職。教皇フランシスコは、米共和党候補トランプ氏がメキシコとの国境に壁を作ろうと発言したことに「壁を作るのは、クリスチャンではない」といわれた。若者の反乱（発言）のない社会は死のにおいがする。老人の発言のないところは、あきらめの砂漠が広がる。女性の発言のないところは、命が絶える。声を出さないと声を出せない世の中になる。

ベネディクト16世は、信徒の政治活動は社会愛である、といわれた。教皇フランシスコは、信徒の政治活動は道徳的義務であるといわれる。教皇は、“無関心”が問題だと。教会の“命”は、関係（まじわり）、人を大切にする生き方にある。

ヨハネ・パウロ2世の勧めた5つの交わり：

1. 自身の心の深いところにある自分との交わり
2. 隣人（遠いところにいる人とも）との交わり
3. 自然との交わり（自然から搾取するのではなく、仲直り）
4. 公共の善を守る
5. something great（人間を越えるもの）との交わり回復。

教会の21世紀目標：

1. 世界から飢えをなくす。
2. 世界に基礎的医療が行き渡るようにする。
3. 世界に基礎的教育が行き渡るようにする。

現代人は黄金の牛（グローバルな金融資本）を拝んでいる。わたしたちは汨濫する情報を識別しなければならない。

林神父様を囲んで 吉田地区 赤石 良夫

久し振りに林神父様と再会し、81才と10ヶ月になられた神父様は、年齢よりずっと若く以前と変わらない躍動感のある話しぶりは、健在であった。

テーマ「神のいつくしみの愛を受けて 神の国の派遣」で人はいつも、下を向いて歩いている。人生は見上げる→神を見ること。

回心について 人生を豊かにしてくれる心に向ける

可能性は無限 — ほとんどの人は使わないで終わってしまう。神から頂いた可能性を十分に発揮しよう。

高齢化社会—居場所と出番が必要

同じ目線で神と対する。— 互いの内に神の国がある。

神の国とは想像上の未来ではない→神の愛が達している所

交わりの回心 = 自分の心の中の一番奥深い所にある

- ・隣人との交わりを回復
- ・自然との交わりを回復
- ・公共善の交わりを回復
- ・サムシングプレート（父なる神）との交わり

21世紀 カトリック教会の目標

- ・世界の飢えを無くそう
- ・世界の基礎的な医療が行き渡るようにしよう
- ・世界の格差の廃絶
- ・世界の基礎的な教育が行き渡るようにしよう

他にも、現在カトリック信徒が忘れていた事柄について、リアリティーのあるユーモアを交えながら、熱心にお話し頂き大勢の信者は、内容に納得していた様子であった



水巻聖母幼稚園からのお知らせ

マヘル神父様、金祝おめでとうございます。
2016年度もどうぞよろしく願いいたします。

- 2016年度 始園式 4月6日(水)
- 2016年度 第54回 入園式 4月9日(土)



水巻教会の皆さまのお祈りに支えられています。
今年度も子ども達のために、共にお祈りください。
かわらぬご支援とご協力に感謝いたします。

水巻聖母幼稚園 園長 Sr松川明子
職員一同



今月の聖人

19日 聖アルフェッジ大司教 954年-1012年

聖アルフェッジ大司教は、イングランド、ウェストンの高貴な家庭に生まれました。後に修道士となり、聖ベネディクトの会則に従って共同体を作りました。

彼は、984年にウィンチェスターの司教、1005年にはカンタベリー大司教に任命されました。教会や修道院の規律の改革、貧しい人びとの救済に献身しました。10世紀末、イングランドはデーン人(バイキング)に攻撃され、彼はカンタベリーで捕らえられました。多額の身代金を要求されましたが、彼は小教区の貧しい信徒たちが払うのを望まず、7ヶ月間監禁されました。拷問の末、1012年4月19日、復活祭の日、斬首によって殉教しました。



当初、ロンドンのセント・ポール大聖堂に埋葬されましたが、1023年にはカンタベリー大聖堂に移されました。当時から殉教者として敬われ、1078年、教皇グレゴリオ7世により列聖されました。



お知らせ

★特別寄付★

梅の木地区の安永テルノ様よりご寄付をいただきました。ありがとうございました。



【転入】ようこそ!水巻へ

◇二田 賢治さん

光丘教会から 折尾地区へ

★牧山助祭の司祭叙階式★

日 時：4月29日(金) 午後2時～

場 所：横浜教区カトリック二俣川教会

牧山助祭のためにお祈りしましょう。



教会学校のページ

初聖体クラス

2月14日

出席者 永山 楓海さん

○テキスト「ゆるしのひせき」

19, 20, 21, 22を勉強しました。

終わりに「回心の祈り」をしました。

2月28日

出席者 永山 楓海さん・山田 蓮さん

○テキスト「ゆるしのひせき」の準備の祈り

23 ゆるしのひせきの じゅんぴ

24 こっかいじょうを でてからの いのり

25 つみを ゆるしてくれるのは どなたですか

26 こっかいのあと わたしたちはどのようになりますか

の勉強をしました。

○主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱、回心の祈り、使徒

信条の祈りをし、最後に「ありがとう」の歌を歌いました。

3月6日

出席者 永山 楓海さん

○ はじめての「ゆるしのひせき」をしました。

